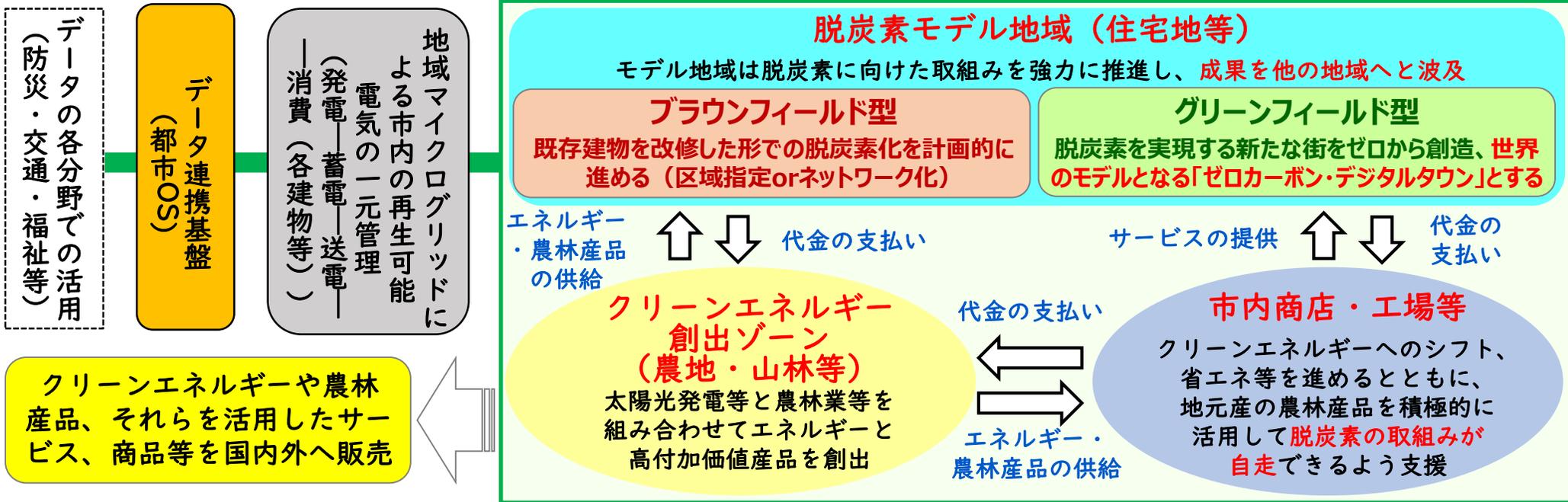


クリーン&スマート城下町“ODAWARA”計画 (イメージ)

～ デジタル技術と規制改革を活用し、産学金官で連携して「脱炭素」と「エネルギーと経済の地域好循環」を実現 ～
＜スーパーシティ & 脱炭素先行地域 & デジタル田園都市国家構想の先駆けを目指す＞

＜目標＞ 市内に「脱炭素モデル地域」を構築。同地域では**2030年まで**（※1）に、本市全域でも遅くとも**2050年までに、脱炭素**（※2）と地産地消を軸とした**エネルギーと経済の地域好循環**を達成。成果（培った技術や知見等）は市の内外へ横展開する。（※1）可能となったサービスや規制改革は速やかに実装へ （※2）民生部門の温室効果ガス排出実質ゼロ



＜小田原市の計画の特色 (小田原だからできること) ＞

- これまで培ってきた市民・企業等の高い環境意識を基に、市街地に「グリーンフィールド型脱炭素モデル地域」として、温室効果ガス排出実質ゼロを目指す数ha規模の街を、産学金官の連携で新規に建設。
- これまで、経済産業省、環境省等と共同で構築してきた地域マイクログリッド、VPP等を活用することにより、市内全域において、再生可能電気を発電－蓄電－送電－消費 まで一元管理（個々のソーラーパネルから各家庭に至るまで一元的に管理することが可能）。また、地域マイクログリッド等のデータについて、データ連携基盤（都市OS）を通じて他分野で活用することを可能とする。（例：発電量、蓄電量等のデータを活用して、災害発生時、避難所等にEVで継続的に電力供給を行う。）
- 本計画は「スーパーシティ構想」の一翼として位置づけていることから、規制改革を活用した強力な施策を推進することを可能とする。（建築基準法、都市計画法等の規制改革による脱炭素社会の実現を提案しており、認められれば全国唯一の施策展開が可能となる。）

小田原市が本計画を通じて実現したいこと

1. 自然と文化に彩られた小田原で、リモートワークと充実した交通網を活用しながら、「豊かさ」と「脱炭素化」とを両立させた上質な生活を自分らしく実現できる場として「ゼロカーボン・デジタルタウン」等を構築する。このような取り組みを通じて、わが国のデジタル田園都市国家構想の先駆けとなり、本市の脱炭素化を実現するとともに、コロナ禍以降続いている人口の社会増を加速する。

2. エネルギーと地域資源（農林水産品等）の地産地消及び市外への販売を進めることで、本市の脱炭素化と地域経済の好循環確立との両立を実現する。エネルギーの地産地消を進めることや、再生可能エネルギーに対応した都市を構築することは、本市や近隣地域のエネルギー自給率の向上と災害時のインフラの確保等に有効であり、本市等の経済や災害対応力の強靭性を高める効果もある。

